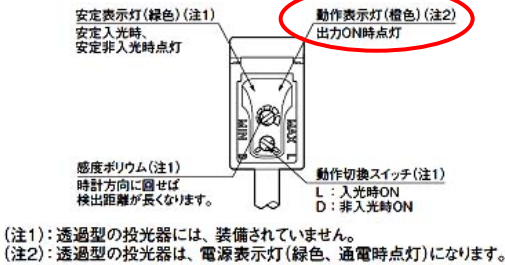


【動作表示灯】

■ 動作表示灯とは？

- ・ON／OFF出力タイプの光束センサ、ファイバセンサ、レーザセンサ、近接センサなどに装備されており、センサの出力動作状態（出力ONまたは、出力OFF）をオペレータに知らせることができます。
- ・一般的には、**出力ON時点灯**という仕様になっています。
- ・出力が2つ（入光時ON／遮光時ON）装備されてる機種（例：RT-610シリーズ）では出力ON時点灯という仕様にはできないので、**入光時点灯**という仕様になっています。
- ・透過型光束センサ（コの字型を除く）では、受光器に装備されています。
- ・動作表示灯の表示色は、基本として**橙色**となっています。
（以前は赤色でしたが、赤色は“危険”という認識があるため、最近では採用されません。
ただし、旧商品で一部、赤色になっている商品があります。



CX-400シリーズ 各部の名称

■ 動作表示灯(仕様)の事例

- ・小型光束センサCX-400シリーズの動作表示灯の仕様は、次のようになっています。

種 類		透 過 型			ミラー反射型					拡散反射型				
		長距離			偏光フィル付	長距離	透明体検出用					狭視界		
項 目	型式名	NPN出力	CX-411	CX-412	CX-413	CX-491	CX-493	CX-481	CX-483	CX-482	CX-424	CX-421	CX-422	CX-423
		PNP出力	CX-411-P	CX-412-P	CX-413-P	CX-491-P	CX-493-P	CX-481-P	CX-483-P	CX-482-P	CX-424-P	CX-421-P	CX-422-P	CX-423-P
動 作 表 示 灯		橙色LED(出力ON時点灯) 透過型は受光器に装備												
女 走 表 示 灯		緑色LED(女走入光時、女走非入光時点灯) 透過型は受光器に装備												
電 源 表 示 灯		緑色LED(通電時点灯) 投光器に装備			—————									

- ・コの字型光束センサRT-610シリーズの動作表示灯の仕様は、次のようになっています。

種 類	コの字型							
	マーク検出用							
型 式 名	RT-610-10	RT-610-20	RT-610-50	RT-610-10R	RT-610-20R	RT-610-10G	RT-610-20G	
動 作 表 示 灯	赤色LED(入光時点灯)							

■ 動作表示灯の点灯パターン

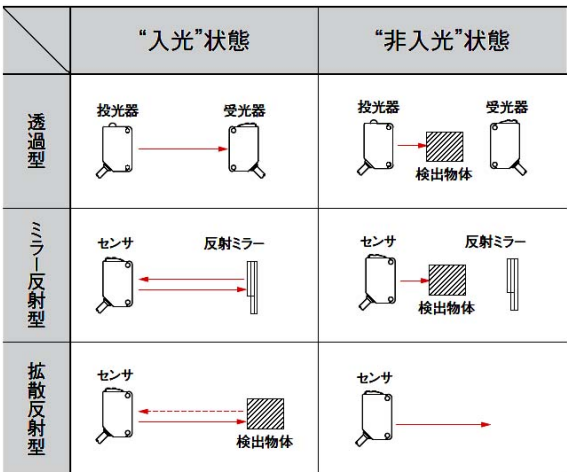
- ・動作表示灯は、出力と“連動”します。

出力と表示灯の関係

入光時ONの場合			検出状態	非入光時ONの場合		
安定表示灯	動作表示灯	検出出力		検出出力	動作表示灯	安定表示灯
●	●	ON	安定入光	OFF	●	●
●	●	OFF	不安定入光	ON	●	●
●	●	OFF	不安定非入光	ON	●	●
●	●	OFF	安定非入光	ON	●	●

●、●：点灯、●：消灯

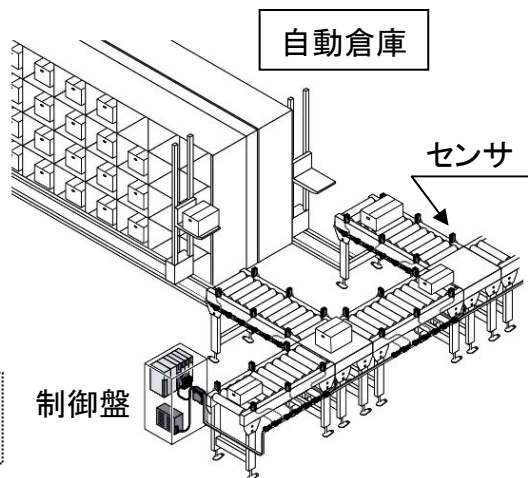
動作設定（入光時ON／非入光時ON）に関係なく、**出力ON時に点灯**



■ もしも、動作表示灯がなかったら？

- ・ほとんどのセンサには動作表示灯が装備されています。もし、この動作表示灯がなかったら、センサの出力動作状態をいちいち制御盤まで見に行く必要がでてくるため、装置の立ち上げ調整(光軸調整など)、試運転、トラブルシューティングなどが迅速かつ、正確にできなくなります。この不具合を解消するために、センサには動作表示灯が装備されています。

センサの出力動作状態をいちいち制御盤まで見に行くのは、大変です。

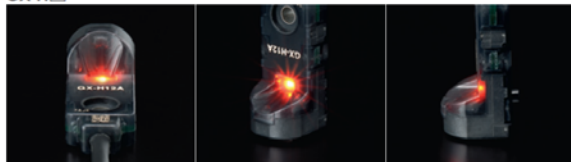


■ 動作表示灯の視認性

- ・小型のセンサは、装置の奥まった箇所にも組み込まれて使用されることも多くあります。この使用状態では、オペレータが動作表示灯の点灯／消灯を確認しづらくなるため、センサの動作表示灯には、視認性が良いことが求められます。
- ・動作表示灯の視認性という性能は、ワークの検出(センシング)そのものには直接関係ありませんが、こういった観点(視認性の良さ)でセンサを選定する場合もあります。

広視野が得られるプリズムを開発。動作表示灯の視認性が大幅に向上しました。

GX-H□



GX-F□



角型近接センサ GX-F/Hシリーズ

■ アンプ分離型ビームセンサの動作表示灯

- ・アンプ分離型ビームセンサのセンサヘッドの一部機種(SH-3□、SH-8□、SH-61R)では、組み合わせるアンプ(SU-7□)と共に、センサヘッド側にも動作表示灯が装備されています。この動作表示灯により、検出箇所ではセンサの出力動作状態をチェックすることが可能となります。
 - ・アンプ分離型ビームセンサとファイバセンサは、
 - ・検出部(センサヘッド、ファイバ)を小型化できる。
 - ・検出箇所から離れた箇所でも感度(しきい値)調整を行なうことができる。
 - ・センサヘッド、ファイバのバリエーションが多く、アプリケーション対応力が高い。
- といった共通の特長を備えています。センサヘッドにも動作表示灯が装備されているという特長は、アンプ分離型ビームセンサ特有の特長となります。

センサヘッドに表示灯を装備

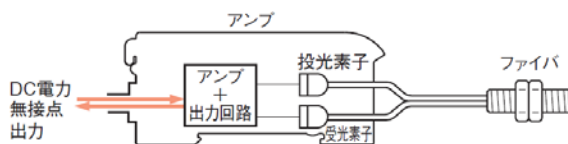
検出現場で動作状態がチェックできる便利な表示灯を装備しています。



SH-3□



アンプ分離型ビームセンサ



ファイバセンサ

●技術に関するお問い合わせは コールセンタ ☎0120-394-205 ※サービス時間／9：00～17：00(12：00～13：00、当社休業日を除く) ●FAX ☎0120-336-394

■発行 パナソニック デバイスSUNX株式会社 マーケティング統括部

[〒486-0901]愛知県春日井市牛山町 2431-1 panasonic.net/id/pidsx

本書からの無断の複製はたかくお断りします。